

私の一冊 「蕪村全句集」 / 『小学校個別指導用「長所活用型指導で子どもが変わる part 2」』

著者	清登 典子, 藤田 和弘
著者別名	Kiyoto Noriko, Fujita Kazuhiro
雑誌名	つくばね : 筑波大学図書館報
巻	26
号	3
ページ	8-9
発行年	2000-12-13
URL	http://hdl.handle.net/2241/10443



本学教官寄贈著書紹介

平成12年8月に寄贈を受けた本学教官の著書を
紹介いたします。(敬称略, 寄贈者五十音順,
〔 〕は配架場所と配架番号です。)

清登典子(文芸・言語学系)

・蕪村全句集 / 藤田真一共編・おうふう, 2000
〔中央 911 34-Y85〕

藤田和弘(心身障害学系)

・長所活用型指導で子どもが変わる part 2: 小
学校個別指導用 / 熊谷恵子, 青山真二編著.
図書文化社, 2000 (国語・算数・遊び・日常
生活のつまずきの指導)〔中央, 大塚 375-
Ku33〕



私の一冊

清登典子

「蕪村全句集」

藤田真一・清登典子編((株)おうふう)
〔中央 911.34-Y85〕



本書は与謝蕪村の全発句, 2,900句近くを季題
別に配列した集成である。各季題の配列は『古今
集』以来の和歌, 連歌, 俳諧などの集のスタイル
にならない, 季節のめぐりに沿ったものとした。

また, 各季題内の発句の配列は制作年次順と
し, たとえば「野分(のわき)」の季題ならば,
明和五年(1768)の「鳥羽殿へ五六騎いそぐ野分
哉」から天明三年(1783)作と推定される「妻も
子も寺で物くふ野分かな」, さらに年次未詳の
「山だちの沙汰して通る野分かな」まで計26句の

発句が並べてある。季題, 句意については, 一つ
一つに頭注で解説を加えた。

このように季題別という配列にしたのは, 蕪村
の場合, その発句作品のほとんどが句会における
題詠句であり, 作品理解のためにも季題意識を探
る必要があると考えたことによる。実際には, 季
題の選定, 配列, 解説どれをとっても簡単にはい
かず, 結局, 刊行までに10年以上の歳月がかかっ
てしまったが, しかし, その作業を通じて多くの
ことを学ぶことができたと思っている。

実は本書を図書館に献呈させていただいたのが
献呈本の少ない夏の時期に当たっていたため, 今
回このような欄で紹介させていただく結果とな
り, 大変恐縮している。文字通りささやかな小著
ではあるが, もしもお暇な折りに図書館で見かけ
られるようなことがあれば, 手にとって眺めてい
ただき, 蕪村の世界の多彩さ, 楽しさを少しでも
感じていただくことができれば, 編者としてこの
上ない喜びである。

(きよと・のりこ 文芸・言語学系助教授)



藤田和弘

小学校個別指導用「長所活用型指導で子どもが変わる part 2」

国語・算数・遊び・

日常生活のつまずきの指導

藤田和弘監修 / 熊谷恵子, 青山真二編著 (図書文化社) [中央, 大塚 375-Ku33]



本書は、1998年に出版された『長所活用型指導で子どもが変わる』のPart 2である。したがって、基本的なねらいは何ら変わらない。「個に応じた指導」を行うためには、指導者は、自分が習得した「指導方略」を画一的に子どもに適用するのではなく、子どもの「学習方略」に合致するように、自らの指導方略を工夫する必要がある。本書のねらいは、このように、指導者が指導方略を工夫する際の、その理論的な考え方と実際の指導方法を提供することにある。研究者と教育実践者との協同によって著わされた手作りの本である。

子どもの「学習方略」にはいろいろなものがあるが、本書では、カウフマン夫妻 (Kaufman, A. S. & Kaufman, N.) の提唱する「継次処理」, 「同時処理」という2種類の認知処理様式を取り上げている。そして、一人一人の子どもの得意な、あるいは強い認知処理様式を活用して、その子どもの学習のつまずきを改善ないし解消したり、さらなる促進を図ることをねらっている。これが、子どもの得意な認知処理様式を生かした「長所活用型指導」である。これまでの伝統的な指導法は、子どもの得意な面や強い能力を活用するのではなく、子どもの弱い能力そのものを改善したりレベ

ルアップすることを強調する「短所改善型指導」が主流であった。しかし、学習障害をはじめとする発達障害のある子どもの場合など、こうした指導法だけでは効果があがらず、逆効果になることさえあることが明らかになってきた。

本書はPart 2であるが、前書Part 1と次の点で異なっている。

対象：通常学級で学習につまずきを示したり、通級による指導を受けている子ども (Part 1では、おもに特殊学級や養護学校の在籍児)。認知発達レベル：7才から9才レベルくらいまで (Part 1ではおよそ就学前まで)。とりあげた教科等：国語, 算数, 遊び, 日常生活の指導 (Part 1では国語, 算数, 作業学習)。

それぞれの学習課題の各ステップごとに、継次処理型学習者に対する指導方略と同時処理型学習者に対する指導方略が、指導展開例として、図解入りで具体的に説明されている。

読者対象は、通常学級や通級学級の指導に携わる教師、それらをめざす学生のみならず、特殊学級や養護学校など特殊教育諸学校の教師、リハビリテーション関係者、ボランティア、保護者などである。

(ふじた・かずひろ 心身障害学系教授)

